



大きなたまご。怪獣の卵?かも。このあと割って食べました。食べ切れません。



日本民家の大家・吉田桂二先生と。

竹取物語・かぐや姫のお話です。かぐや姫はすくすくと成長し美しい娘になりました。その噂を聞きつけた、大勢の男達が求婚にやってきました。かぐや姫は結婚から逃れるために男たちに、無理難題を要求します。石作皇子には「仏の御石の鉢」車持皇子には「蓬莱山の玉の枝」大納言大伴御行には「龍のくびの玉」中納言石上の麻呂には「すずめの子安貝」というものです。求婚者のひとり、右大臣阿部の御主人には「火鼠の皮衣をもってきてくれたら結婚しましょう。」と言い渡します。阿部の御主人は、かわごころも手に入れて、持っていきますが、かぐや姫は「本物の皮ころもならば燃えないはずです。」と行って火にくべてみました。すると皮ころもはめらめらと燃えてしまいました。この燃えない布こそアスベストのことだそうです。

江戸時代には平賀源内が燃えない布を作り将軍に献上したことがあったそうです。かぐや姫の物語にアスベストが出てくるなんてビックリですね。アスベストと人間との関わりは深く、人間は、自然界にあったアスベストを古くから利用してきました。アスベスト被害の大きさがわかるのはまだこれからではないでしょうか。

住まいの工事に携わる私たちにとって、一番悩まされるのは天候です。この春は、梅雨入り前から雨降りが多くて困りました。まもなく梅雨がやってきます。ますます天候に悩まされる季節です。どうか、皆様お元気にお過ごしください。



丘の上に建つ



リビングから見えるのは太平洋



設計 結設計/藤原昭夫 先生

初夏のような気候となった5月はじめのこと、とても感慨深い気持ちになりました。上の写真をご覧ください。結設計・藤原先生のシャープでモダンなデザインは美しく映えます。海岸道路から急な丘を登っていきとこの家にたどり着きます。海岸側は絶壁のように立ち下には太平洋が広がっています。

昨年の暑い夏にコンクリート工事の時期には台風が来襲、秋の長雨の時期になった大工の工事は海からの強風に悩まされながらの作業となりました。雨が降ればトラックのタイヤが滑ってしまうために、下から資材を人力で担ぎあげるしかありませんでした。冬になれば海からの冷たい北風にさらされました。予想を越えた難工事となりました。

地形も気象も厳しい条件のもとでしたから、完成は本当に嬉しい気持ちでした。

リビングの北方向には弓形に延びる九十九里浜と太平洋の地平線を望むことができます。庭からみればサーファーたち、砂浜、この上ない夢のような海岸リゾートです。

天気のおよい日、この場所で食べる弁当のおいしさは格別です。とにかくみなさん、お疲れ様でした。

発行者 ご連絡先
秋葉建設(株) 秋葉 忠夫
〒289-2163 匝瑳市南神崎52-1
電話0479-72-0814 FAX0479-72-0824
Eメール master@woody-akiba.com
HP URL <http://woody-akiba.com/>